

那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

第1回 「那須平成の森とは、どんな所？」

日光国立公園那須平成の森は、平成23年(2011年)5月22日「国際生物多様性の日」に開園した環境省の施設です。

開園までの経緯は、当時の天皇陛下(現上皇陛下)の「豊かで多様な自然環境を維持しつつ、国民が自然に直接ふれあえる場」として活用してはどうか」とのお考えを踏まえ、那須御用邸の一部が宮内庁から環境省へ移管されたことに始まります。

これを受けて環境省は、「豊かな自然を残し、(中略)自然を体験し、自然に学び、自然と人間の共生のあり方を学ぶことができる場として、持続的な利用を図る」との基本方針を示し、フィールドセンターや歩道など

私たちが運営しています



那須平成の森フィールドセンター(奥は茶臼岳)

を整備し、日光国立公園那須平成の森を開園しました。

運営の最も大きな特長は、自然体験重視型の教育施設であること。「ガイドウォーク」を始め、さまざまな自然体験プログラムを用意しており、どのプログラムにも「環境教育」の考え方を根底に据えています。2つ目は、学校との連携。特に、那須町の小中学校等を対象としたプログラムや学校に向向いての「出張授業」は大切な事業だと考えています。

那須平成の森は、本年度、開園10年目を迎え、毎年約5万人



新型コロナ感染対策で閉園のなか、今年もシロヤシオは咲きました(5月撮影)

の方が入園されています。近年は、地元のカフェにも出店、訪れた方がコーヒーで一息つくことも。居心地の良い空間作りにも、スタッフ一同日々奮闘しているところです。

8月号からは、毎回テーマを変えて楽しい話題を提供します。

那須平成の森フィールドセンター長 若林正浩(写真左奥)



一度は読んでみたいと思っていた「源氏物語」の現代語訳を読み始めました。

「帚木(ははきぎ)」巻では、梅雨が長引き朝から雨が降り続く日の夜、光源氏らが理想的な女性とはどのようなものかを談義する様子が描かれており、物語からは千年以上前の貴族社会を伺い知ることが出来ます。

時は進み、今からちょうど百年前、町内を通る東北本線が旧線から新線に切り替わりました。那須歴史探訪館では、街道から鉄道への移り変わり、黒田原の発展をもたらした鉄道開通、鉄道とともに歩んだ町の歴史をたどるテーマ展「街道から鉄道へ」(16頁)を開催しています。当時の町の様子を知ることが出来る品々の展示のほか、関連講座も開催されます。ぜひご来場ください。

⑩

「県民の日特別給食」(24頁)の取材では、園児たちが給食を食べる前に、園長先生が検食をしているのを初めて知りました。主食のご飯はお弁当。おかずや汁物は、園児たちにあわせて薄味で軟らかく、栄養たっぷり。保護者、管理栄養士、調理員、保育士、そして生産者に支えられている給食を、味わいながらも口いっぱい頬張る園児たちのかわいさに、私は胸がいっぱいになりました。

⑪

こんにちは

赤ちゃん



令和元年6月10日生

あやみ 薄井彩望ちゃん (二枚橋)

父 大樹さん 母 優さん



彩望ちゃんは...

2人のお兄ちゃんが大好き♡元気いっぱい、優しい女の子になってね!!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。

詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(6月1日現在・住民基本台帳)
()の数字は前月比

・世帯数 10,399世帯 (-3)
・人口 24,908人 (-10)
男 12,379人(-8) 女 12,529人(-2)

あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。